

西日本豪雨災害から5年の月日が経ちました。7月6日には、市旗と校旗を半旗にし、正午に、全校で1分間の黙とうを捧げました。報道機関でも取り上げられ、特別番組の放送もされていました。先週末から北九州や中国地方で線状降水帯が発生し、島根県や福岡県等で大きな災害になっています。岡山県でも大雨警報が発令され、JR等の交通機関にも乱れが生じました。明らかに雨の降り方が変わってきています。気候変動に対応して、必要な避難をやり過ぎさないことを、西日本豪雨災害から5年を機に、再度心に刻んでおきたいと思います。

校長 高木 盛雄



☆教育講演会を受けての子どもたちの感想を紹介します

私は、いきなりの災害にすぐ対応できるようにしたいです。ニュースとかでも、「何時、何分、何秒に災害が起きます」とか言えないし、分からないから、日ごろから準備して、命をうばわれるかもしれない災害と向き合っていきたいです。私は、よく災害に関係する本を読みます。だからこそ、豆知識とか知っています。でも、本を見るだけでなく、行動で示していかないとと思いました。だから、避難訓練の地震、津波、不審者など、すべての訓練でがんばりたいです。

高津先生は、家でばたばたしていたけど、みんなのためにすぐにかっつけて、何人かの先生と一緒に机を移動したり、全部の教室を開けたりして、とても大変な思いをされました。けれど、食事もあるので、たくさんの人をお願いしたけど、人数分には足りなくて、「〇〇の人は前に…」と呼びかけられました。

私は、こんなことがこの学年であったら、きっとみんなの最強の力をつかってできると思います。また、家でも避難袋があるか確認して、分かりやすく取りやすい所に置いて準備したいです。

真備町の災害の話を知り、あらためてその苦しさ、大変さを知りました。他人事だとは思わず、いつどこで、どんなときでも、災害が起こってもいいように、工夫して避難用のグッズが入っている袋を作ったり、ハザードマップを見返したり、あらためて自分の家の避難場所を頭に入れて、ふだんの生活を過ごしていこうと思います。そして、このことをまだあまり気にかけていない人にも伝え、災害が起こっても死ぬ人がほとんど出ない玉島、倉敷市、岡山県にしていきたいです。

粉ミルクは、あまり必要ないと思っていたけど、5年生の話を聞いて、必要なだと思いました。私が特に必要だと思ったのは、心の支えになる物です。人として一番必要じゃないかと思いました。

避難持ち出し袋は、すぐに準備できないので、準備できるときに買って備えたいです。

人と人が協力することで、ご飯などの話や不安事が解決されると思いました。マニュアル通りには進まないらしいので、自分でも行動を考えたいです。

もしも、東日本大震災などの災害が起きたら、自分がどういう立場で過ごしていくかなどを考えながら過ごしていきたいです。インターネットで、被災した人たちに、どんなものを持っていったらいいか、急に災害がきたときに、どのような対応をとった方がいいのかを詳しく調べたいです。他の学校の人 cameたら、皆で励まし合ったり助け合ったりして協力してあげたいです。避難時は、タオルなどを持って行って体温をうばわないようにし、ビスケットなど長持ちする食料を準備したいです。

この学習をして浮輪が大切だと思いました。川や海などがあふれたときに、浮輪があると浮けるのでとても大切だと思いました。そして、もしも災害が起こったとき、準備をしているか、今日、帰って家族でもう一度見直したいです。いつどこで災害が起こるか分からないので、しっかり準備したいです。

そして、高津先生の話を知り、チームで協力することは、とても大切ということについて詳しく分かりました。このチームでの協力を、山の学習、修学旅行で生かしていきたいです。

☆出前授業で、「租税教室」(6年生)をしていただきました！

市役所と税務署からの出前授業です。6年生が、税金の種類や用途など、税の仕組みについて学んでいます。

